

裸の大將放浪記
山下清

裸の大將放浪記

第一卷

裸の大將放浪記 第一卷

昭和五十四年八月二十日 印刷
昭和五十四年八月二十五日 発行

著 者 山下 清

監 修 式場俊三

発行人 山本一哉

発行所 ノーベル書房株式会社

東京都新宿区歌舞伎町二一―八―五

電話 東京二〇〇―〇一六〇

振替 東京五一―四四八九五

印刷
製本

株式会社 せいわ



放浪をやめる誓い

僕は毎日々々ふら／＼して遠い所迄歩いて行つてゐるんぺんを
して居るのは自分でもるんぺんと言ふ事はよく成つと言ふのは知つて
居るんぺんをして居るのは自分のくせか自分の病氣だらうと
思うので毎日／＼して歩くのなくせか病氣だらうくせか病氣
は急になほす無いかうだん／＼と一其のくせをなほそうと思つて居
るので今年一ぱゐるんぺんをして来年かゝるんぺんをやめ用と思つ
て學園の先生とそうだんをしたので幾うくせでもなほそうと思へば
今かゝるでもすぐ其のくせがなほると言はれをかう今度かゝるんぺ
んをするのを思ひきつてやめ用と思ひます

もしるんぺんをした場合は病氣と思はれてもかまいません

昭和二十九年四月十一日

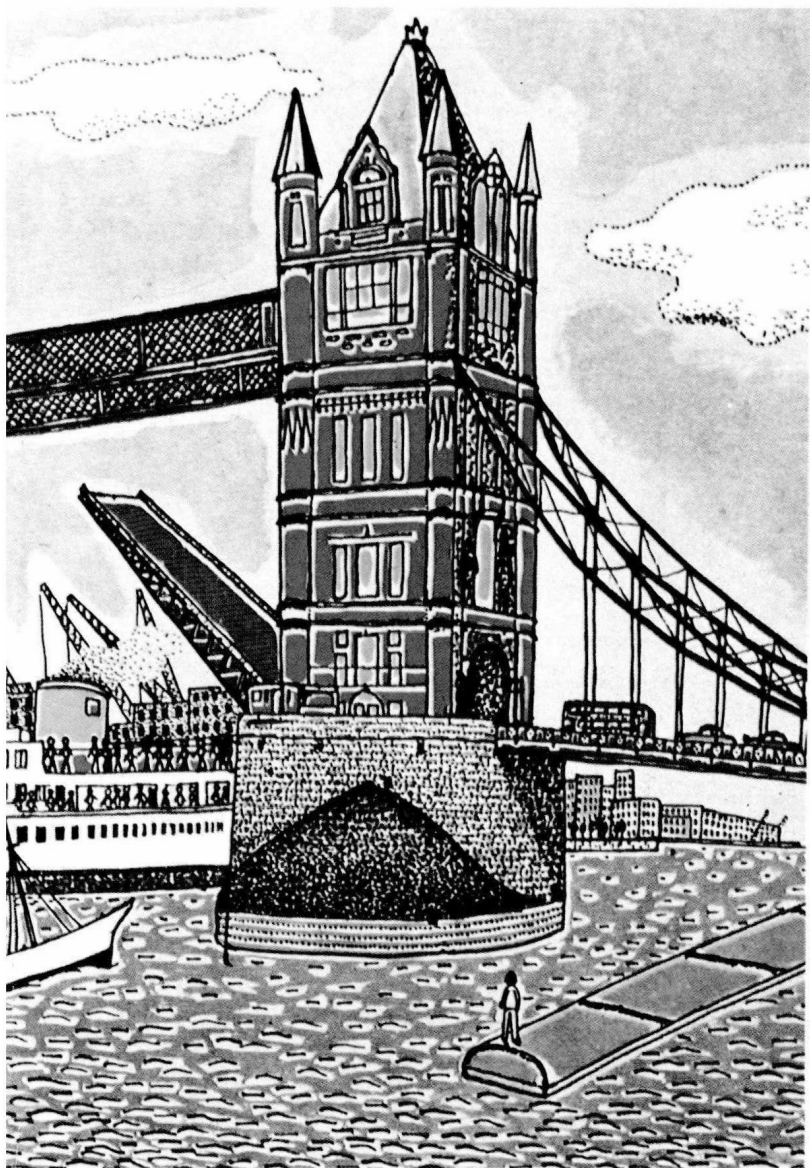
山下 清

八幡學園長様

〔前頁〕 スケッチ旅行で訪れた山口県徳山市の旅館で。
おなじみの裸スタイルでコーラを飲んだあと、
空ビンを鳴らしてみる 清。 1965年6月

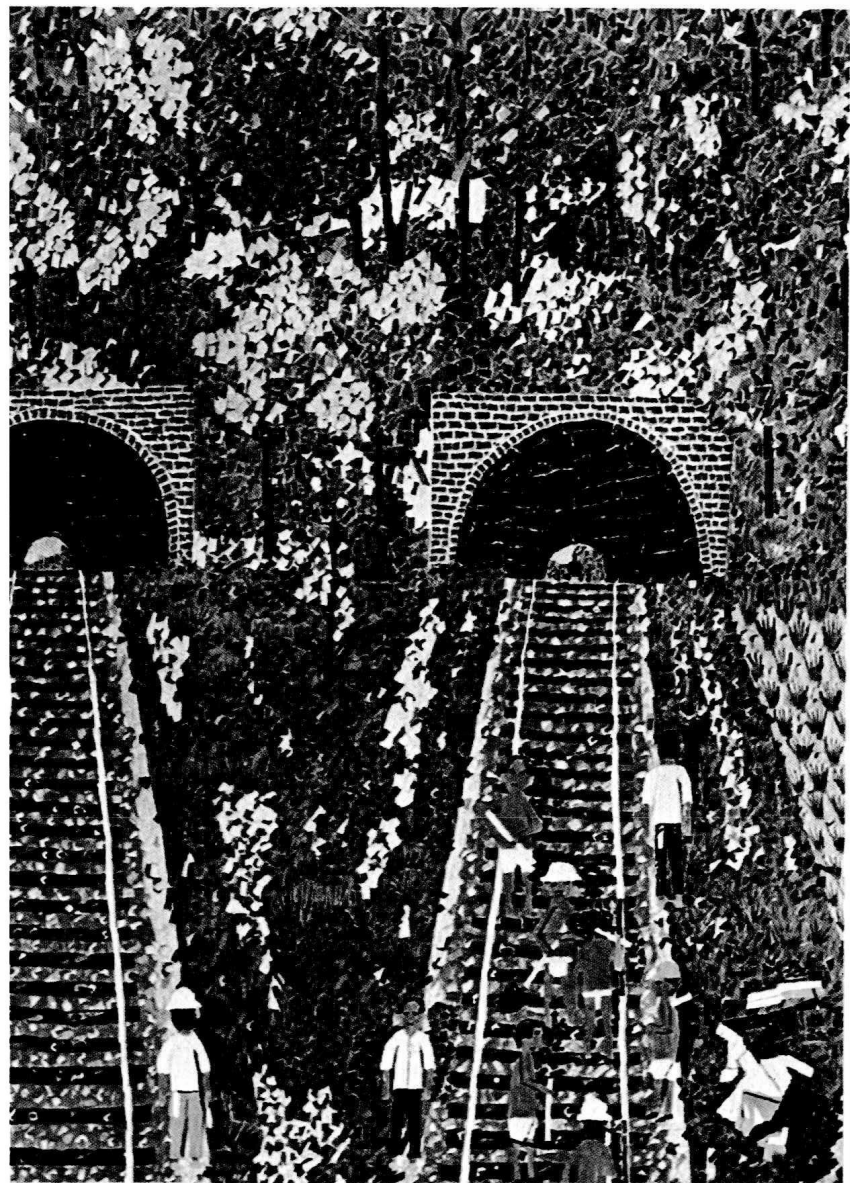


パリのムーランルージュ

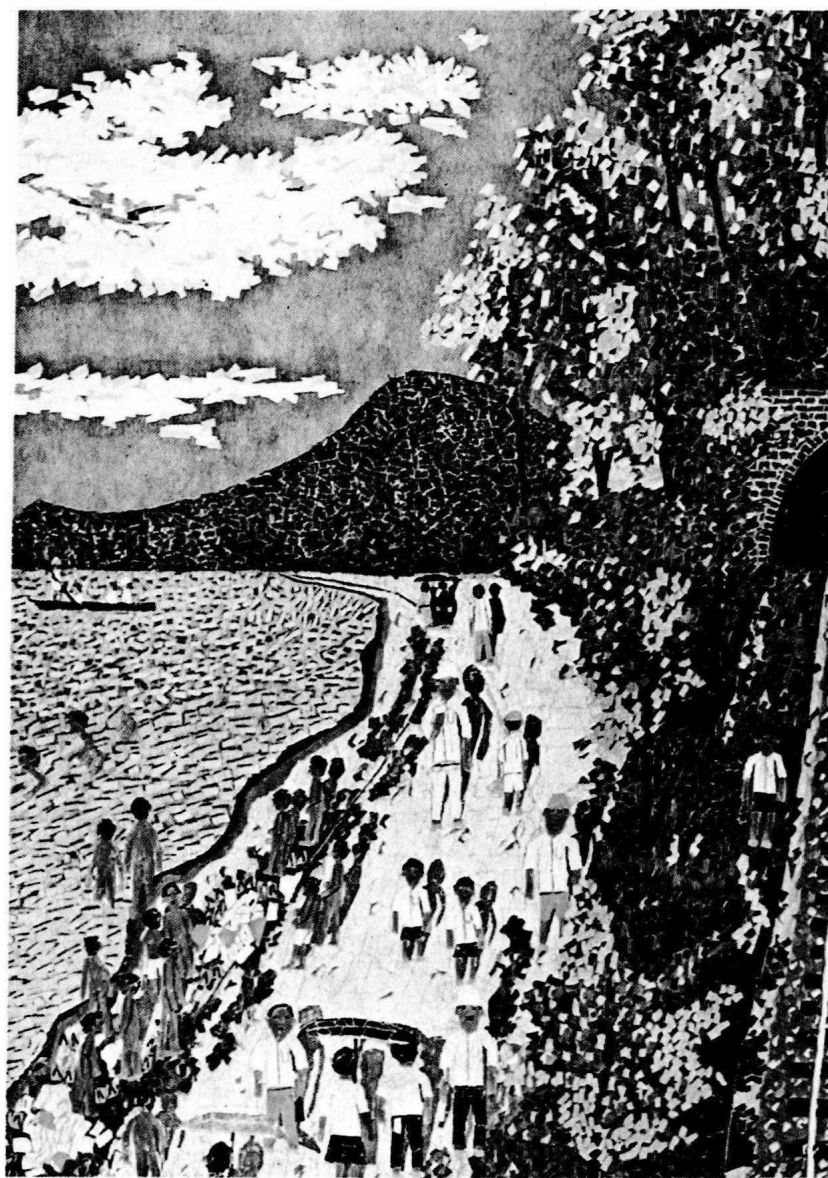


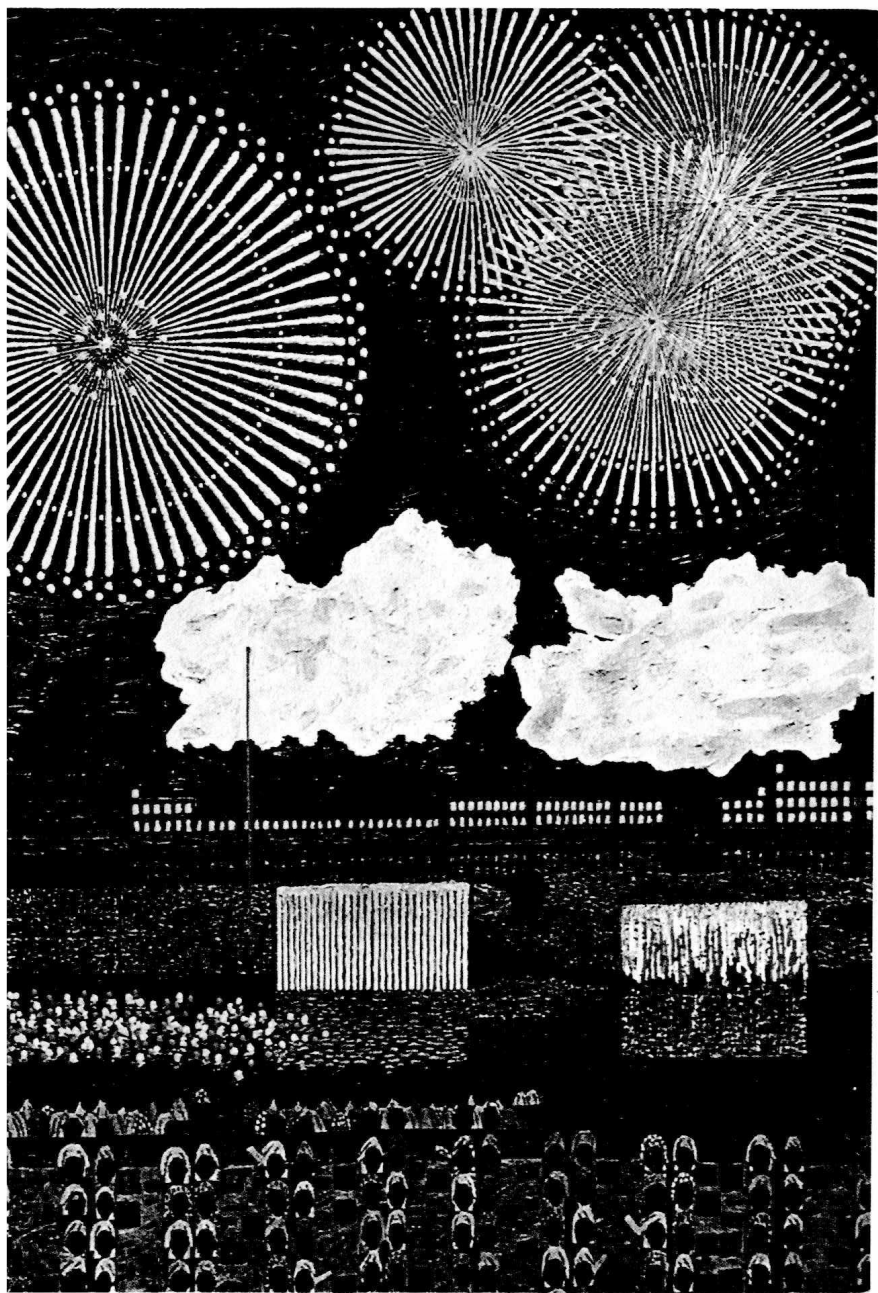
ロンドンのタワーブリッジ

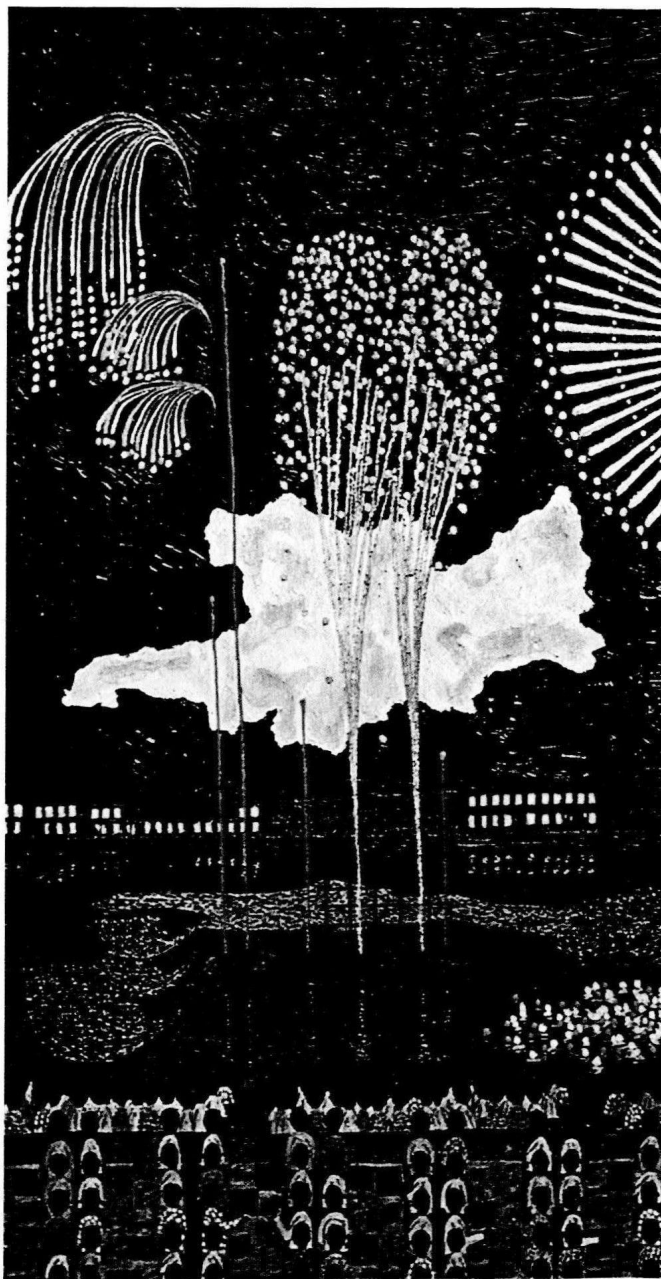




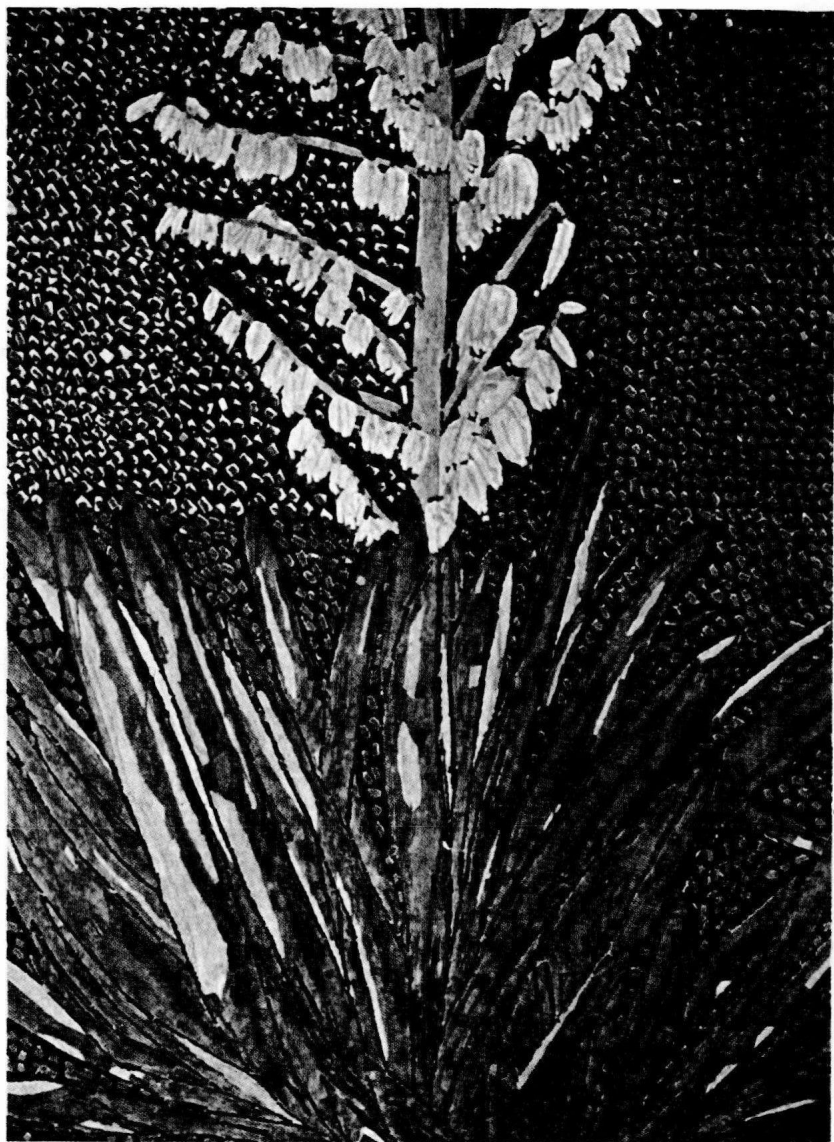
トンネルのある風景







両国の花火



ゆ っ か

目次

山下清の人と作品 式場隆三郎	19
放浪日記 1 (戦前編)	57
田舎は広々として気もちがいいので	59
ちゃんが僕のことを見て驚いて	61
「浅草区の田中町九〇番地だ」	65
つかわれている人は飯でもおかずでも古い方を食べるのです	70
あの時は一月だから寒くて寒くて手が冷たくなって	77
だんなさんと金ちゃんがおこりっぱいからこのそば屋がいやになって	87
我まんをしてるのだと思って もっとからかわれて それでも我まんをして	91
逃げて行く先の順じょを考えて いよいよあしたは出かける日で	102
山下という家は建てられるし およめさんは貰えるし	109
僕はアイスの夜明かしをやって昼から夕飯まで寝ます	125
ここの弁当屋は「やよい軒」という弁当屋でした	142
魂はそこら中ふらふら飛び回って	150
僕の事をばかにしたりからかったりして僕はだまっていられない	153
大水になったら蜜柑箱に乗って歩くのだ	158
小さい時の心と大人になってからの心は幾らもかわりはない	166

敵のたまにあたって死ぬのが一番おっかないな.....	170
十二月八日の朝日本とアメリカと戦争がはじまりました.....	176
あしたは元日で元日の朝早くから逃げて行く.....	182
頭が悪いけれど一生懸命働きます.....	193
この話は本当かうそのさかいだと思ふ.....	199
馬橋の大通りはさびしくもなく中位です.....	209
夏ははえが飛んできて不衛生です.....	211
仕事はひまと忙しいときと平均にいかない.....	214
やっぱり人間だからうまいもの食いたい.....	222
シンガポールがかんらくした.....	231
だんなさんは朝晩神様をおがむ.....	234
頭が悪くてもじまんにはならない.....	236
茶わん一つ洗うのも戦争だ.....	263
神様が知らせてくれなかった.....	271
山下の話はまんざいみたいだ.....	273
一億人がけん金しなければ戦争に勝てない.....	278
言葉よっか仕事が大事だ.....	283
なりはぼろでも顔が違ふ.....	288
山下は赤ん坊ぐらいだ.....	291

いやになる商売は何かいいことがある……294
都合のいいときは頭がいいな……303
巡査は兵隊の位に直すと伍長です……306
少尉の家来は百人 大將の家来は五万人……313
せきにながあるから伍長だ……323
おーい山下大將……326
じゅんさでもどろぼうするじゅんさが……331
幾ら山本元帥がえらいと思っても……334
イタリヤが米英のすけだちになった……336
九年前に居た田中町がこいしくなつて……344
兵隊へ行くのはつらくて……347
去年も二十二歳で今年も二十二歳……349
貰ったお父さんは本当のお父さんと違う……351
どうしてもお母さんの家へ行ってみたい……353
新宿駅前で「新宿駅前はどこですか」と聞く……356
杉並区役所で兵隊検査をやる……359
魚屋からこっそり逃げ出す……362
ぼくはゆうずうがきかない……366
魚屋の人がむかえに来た……369

精神が悪い所があるからだ.....	372
定休日に活動見るのが楽しみ.....	376
面白かった空中戦の活動.....	379
八幡学園がこいしくなったから.....	382
貼絵が下手になって残念に思った.....	384
十二月の半ば頃また学園から逃げていきました.....	388
下駄と足をくくって歩く.....	390
逃げていった日にお母さんが来ていた.....	392
お母さんが死んで化けてくるというのはうそだ.....	395
戦争がおえるとどこでも遊びに行ってもよい.....	397
風呂に礼をいっても返事はしない.....	402
山下は夜逃げの最高指揮官だ.....	404
兵隊よりつらいところはない.....	407
天皇陛下は英語でエンペラだ.....	409
皆は僕がうそを言っていることを知ってる.....	412
しんたくはごく楽で魚屋はじごく.....	417
はんけはしんたくのしんせきだった.....	419
景色をながめながらいい運動になって.....	424
生まれてはじめて飛行場を見ました.....	426